

株式会社 全国商店街支援センター

平成29年度 商人塾支援事業

(事業報告書概要版)

実施機関:弘前商工会議所(青森県弘前市)

参加商店街:下土手町商店街振興組合、中土手町商店街振興組合

コーディネーター:名前(所属)松浦 忠雄 (株式会社エム・シー・オー 代表取締役)

休日の新しい商店街の楽しみ方を創造し
街の活気と商人の元気を取り戻す

商店街の次世代リーダーに求められる資質向上

毎週末におけるイベントの企画と継続的な運営

今一度、街の活気と商人の元気を考える



カリキュラム

第1回

題名:本塾の目的と商店街の現状の把握
講師:(株)エム・シー・オー 代表取締役 松浦忠雄 氏



第2回

題名:富士宮駅前通り商店街の取組事例について
講師:富士宮駅前通り商店街理事長 増田恭子 氏



第3回

題名:七日町商店街の取組事例について
講師:山形県七日町商店街振興組合 事務長 下田孝志 氏



第4回

題名:受講内容のまとめ・卒論作成
講師:(株)エム・シー・オー 代表取締役 松浦忠雄 氏



第5回

題名:卒業論文の発表・総括
講師:(株)エム・シー・オー 代表取締役 松浦忠雄 氏

想い (なぜ、商人塾を実施しようとおもいましたか?)

少子高齢化に伴う人口減少やインターネットの普及による商業環境の大きな変化に対応が遅れている商店街において、まずは課題の把握と新たな消費者ニーズを探るべきと感じた。その課題とニーズに対応するためには強力なリーダーシップを発揮する牽引役が必要であり、その牽引役を発掘し育成するために本事業の実施に至った。

ねらい (どういうポイントで塾をすすめましたか?)

※現地調査がある場合はそのねらい・写真も入れてください

今までは事業の大部分を事務局に任せることも多かったが、組合員が参画し実際に活動することを目指すものであり、牽引役はひとりということではなく、牽引役をグループとして組合内に新たな委員会を設置し、永続的に活動するところまで目指したい。また、商店街の垣根を越えた意見交換により、連携による相乗効果も期待できると見込んだ。



(受講の様子)



(ディスカッション)

コーディネーターから

(できたこと・できなかったこと)

株式会社エム・シー・オー 代表取締役

松浦 忠雄 氏



研修対象の塾生は下土手町商店街振興組合会員を中心とし、上土手町商店街振興組合会員及び中土手町商店街振興組合会員のほか、行政、支援機関の職員も含めて実施した。事業目的は商店街や商業経営面の様々の課題に対応するために、強力なリーダーシップを発揮する牽引役を発掘し育成することで、組合内に新たな委員会を設置し、永続的に活動できることを期待する事業運営を見込んだ。また、商店街や立場の垣根を越えた意見交換により、連携による相乗効果を研修のポイントにした。1 回目は商店街の現状把握をして頂くために商業環境や商店街の状況等について講義し、塾生に意見交換して頂いた。2 回目、3 回目は、静岡県富士宮市と山形県山形市から実務で活動されている方を講師に招き、他地域の事例の取組みを聴講して頂き、今後、塾生の取組への参考にして頂いた。4 回目にはこれまで受講した内容を踏まえ、今後の具体的な取り組み等について活発な意見交換がされた。今後の商店街のあり方、商店街等が実施するイベントのあり方や組織との連携の重要性、商店街等の情報発信に加え、店の繋がりの重要性等をポイントとして学んで頂いた。

今後に向けて

(商人塾を受けて変わったこと・起きたことは？)

商人塾の成果を今後どのように活かしていきますか？)

今回の商人塾のメインテーマである「休日の新しい商店街の楽しみ方を創造し、街の活気と商人の元気を取り戻す」という事項について塾生自身にかなりの影響を与えることが出来た。今後は塾生の所属する商店街だけでなく、他地区の商店街・学生・行政やその他支援機関と今以上に連携しつつ関係性を築いていく。また、商店街構成員が新規事業を提案した際は、書類申請・作成方法について指導し、より円滑に事業を推進できる体制を構築する方針である。また、下土手町商店街、中土手町商店街等で長年共同開催している大型イベントについても、今後は事業の見直しを検討していく。

卒塾生代表

(商人塾で得たことは？)

■ 下土手町商店街振興組合 ■

専務理事 成田 尚三 氏



商店街の今後の運営について学ぶことが出来た。元来商店街で行っているイベントはもともと集客により売上増加を目的に行っていたはずなのに、現在は恒例行事として行われ形骸化している。一度イベントについて見直しを検討する必要性があると感じた。

また、ほとんどの店舗は商店街の構成員であるはずなのに、傍観者として参加する意識の薄さがあった。今回の商人塾を通じて「まずできることから、できるだけたくさんの仲間と始めよう」をモットーに、やる気のある仲間が集まる場を作り、自分たちの街の将来を、話し合えるようにしていきたい。